

校長室から応援メッセージ(5)

令和4年10月14日(金)

「人生の秋は短い…？」

皆さん、こんにちは。ようやく夏の暑さから解放されたと思ったのも束の間で、季節は進み、夕方、暗くなる時刻もどんどん早まってきた。この季節、私はしみじみ思うのですが、人生においても盛りを過ぎたと思う間もなく、そこに迎える秋は、文字通りあっという間に過ぎてしまうのでしょうか。

育ち盛りとか働き盛りとか(女盛りとか男盛りとかはこの場で申し上げるのは憚られます。しかし、申し上げてしまいました)、そのように人生に盛りの時期があるとするならば、高校の教員を定年で退職してからの私は、そのような盛りをとっくに過ぎています。秋も過ぎ、あるいはもうすでに冬を迎えつつあるかもしれません。

しかし10代、20代から、やがて60代、そしてこの先も、それぞれの時代が人生の盛りなのだと私は考えたい、と思います。そして本当にそうなのでしょう。何歳になろうと、その時その時が自分の人生の盛りなのです。だって今まさに一生懸命生きているのですから。予備校で勉強している皆さんには未来に人生の盛りが待っているのではなく、今が皆さん的人生の盛りです。

共通テストの出願が済み、入試本番が近付いてきました。でも今日も本番です。いつも今、その時が人生の盛りです。人生の盛りはまだ先にあって、そこを目指して予備校生から大学生になって人生の階段を一步あがる、こういう構図はわかりやすい。しかし、人生に階段なんてありません。階段をあがる、おりる、あるいは駆け上がる、踏み外す、そんなことはありません。

人生はプラスマイナス、と言われることがあります。この言葉は、プラスとマイナスとが釣り合ってトータルでゼロ、という意味ではありません。人生にはプラスもゼロ、マイナスもゼロ。であるのに、意識がプラスとマイナスをつくり出している。プラスマイナスとは、勝手につくったその意識に振り回されることを、有頂天になったり、落ち込んだりしないことを求めているのです。

皆さん、これから長い人生は、いつも本番、いつも人生の盛りです。何があっても今が人生の盛り。自分は自分、という覚悟を持ち、自分の底力を信じてください。皆さんの健闘を心からお祈り申し上げ、どこにあるのか皆さんはきっと知らない校長室からの応援メッセージとします。